

映日
画本

イ・ア・ン・ク・イ・ズ・イ・ノ

監督・脚本は 菊池の イワモトケンチ



ババ...
コラムニストの
神足裕司

ママ...
神田紅



製作・配給は

うずまきにつぼん
VORTEX JAPAN.

息子...
栗原隆章



娘...
村越愛子



35ミリ カラー映画 ビスタビジョン 82分 1993年

英語タイトル「モンキーズ・イン・パラダイス」 仏語タイトル「DES SINGES AU PARADIS (発音できません)」

こ
の
映
画
は
猿
映
画
で
は
あ
り
ま
せ
ん。

いちいちむっちゃんって覚えて！

11月6日(土)より

オーモレツレインボーロードショーた。

京阪神独占昼興行!

アメリカ村・ビッグステップ4F、右へ曲がれ!

パラダイス・シネマにて

庭に石が六十個

☎06-282-1460

●英語字幕入りで上映いたします。
外国人のお友達も誘ってください。



配給協力:パラダイス・シネマ

雨の日も風の日も虹の日も毎日休まず営業しております。

11:45	13:30	15:15	17:00	18:45
-------	-------	-------	-------	-------

特別鑑賞券も絶好調発売中です。

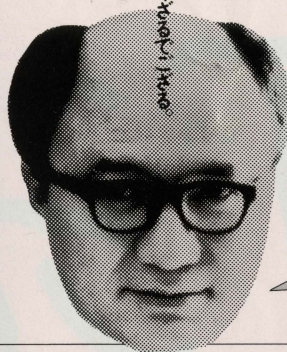
★一般様 1400円(当日一般様1700円を300円おまけいたします!)[税込]

★学生さん 1200円(当日学生さん1400円を200円おまけいたします!)[税込]

★団体様 1300円(当日団体様1700円を400円おまけいたします!)[税込]

1 神足裕司

職業—コラムニスト
1957年、広島県広島市に生まれる。慶應義塾大学法学部政治学科を卒業する。学生時代から執筆活動をはじめ。初の著作は「金魂巻(共著)」。「週刊朝日」「週刊SPA!」「クレア」「NAVI」「産経新聞」などで連載。普段の生活をまるで日記を書くように表現している。「行楽猿」で役者デビュー。



一九六一年、愛知県・春日井市出身。一九八二年、横浜放送映画専門学院シナリオゼミ(現日本映画学校)を卒業。一九八五〜一九八九年、漫画家、イラストレーターとして活動する。その変な画風と変なストーリー展開で一部熱狂的読者を得るが、一九八九年八月、

監督のイワモトケンチさんは三十三歳です。

映画進出を決意して突然絶筆する著作は「ライフ(マガジンハウス)」「精神安定剤(出版社倒産のため絶版)」しかない。一九八九年十二月、友人で実業家の大井秀一を代表として「有限会社うずまきにつぼん」を設立する。一九九〇年六月、初監督作品「菊池」完成する。一九九一年二月、ベルリン映画祭に正式出品される。「ヴォルフガング・シュタウテ賞」を受賞。賞金二百万円もらう。同年十一月、「菊池」東京公開する。一九九二年二月、「菊

2 神田紅

職業—講師、女優。
福岡県出身。生年月日不明。19??年、早稲田大学中退する。文学座演劇研究所卒業する。1979年、講師、リホーター、エッセイストとして活躍開始。1989年、真打昇進。本牧亭にて昇進披露興行する。映画出演作「祭りの準備」(監督：黒木和雄・ATG・1975)。「女街・ZEGEN」(監督：今村昌平・東映・1987)。

これはある日本人家族のお話です。パパはハゲ頭でママはサイケで息子は丸坊主で娘は小学四年生でちっちゃいんです。そんな四人家族の今年の夏旅行は八月十四日から三泊四日の旅でした。ところが今年の夏旅行はどうもいけなかった。パパは愛車の赤いスバルをおもいっきりガードレールにぶつけてしまう。到着した旅館の窓の外には巨大な信号機がこちらに向かってチカチカしていた。展望台にはカモメがいて、滝には伊豆の踊り子もいて、いのしし村には猪までいた。パパたちは猪を見たあとに無神経にも猪の串焼きを食べてしまう。



そのせいで娘の美智子は寝込んでしまい、一日早く帰るはめになってしまった。パパはもうれつに腹が減って、卵よっつをぐつぐつとゆで卵にした。つるつるとしたゆで卵をながめるように食べていると、突然、達磨大師が現れてこう申された。『つまり、君は猿なのだ。』

パパはそれで全てがわかったような気がした。パパは立ち上がって全速力で叫んだ。『義明！美智子！ママ！我々は猿なのだ。』



『猿だったんだよ。』だれが猿だつて？

3 栗原隆章

職業—中学生、俳優。
1979年、東京に生まれる。映画出演作品「白い手」(監督：神山征二郎・関西テレビ・1990)。「橋のない川」(監督：東陽一・西友・1992)



『行楽猿』の音は全て撮影後のスタジオ・ワークによって作り出されています。つまり撮影が終わった時はまったく映画の音がないという事です。編集を開始すると同時に全ての音を作りはじめるのです。なぜそのような面倒な作業をするかと言うと、音も映像と同じように映画のたいへん重要な要素だと考えているからです。台詞は勿論のこと、衣服の摩擦音まで一つの音を丁寧に、そして一番素敵な音を人為的作業によって作っていきます。まったく気が遠くなるような作業をしているわけですが、その気の遠い作業によって作られた音たちが集まって、また一つの大きな音を形成しているわけです。どうぞ耳を澄ましてお試しください。

音のことを説明しておきます。

日本映画「行楽猿」を解説します。

この「行楽猿」はイワモト監督の「菊池」から始まる「対話三部作」の中核をなす重要な作品です。「菊池」、「行楽猿」、そして共通の観点を持っています。物語は「菊池」の「独りぼっちな僕」から「行楽猿」の「家族と一緒」へと移り変わります。次回作「豚足百景(完結篇)」ではその舞台を江戸時代の長屋に移し、人間本来の対話のあり方を少し問う作品を製作する予定です。

「有限会社うずまき」にぼん？

「有限会社うずまきにつぼん」は一九八九年十二月に長野県・諏訪市でレストランなどを経営する大井秀一(当時二十八歳)を社長さんとして設立されました。社長・大井と監督・イワモトは映画学校時代の友人でした。「有限会社うずまきにつぼん」の特徴は社長・大井と監督・イワモトが完全にパトロンと作家の関係からなり立っている事にあります。現代では貴重なこの関係が成り立っている理由は、社長・大井と監督・イワモトとの間で十年以上の時間をかけて築いてきた深い信頼関係があるからです。



4 村越愛子

職業—小学生。
1980年、群馬県に生まれる。「行楽猿」で役者デビュー。



ムを自分たちなりの再構築をするために立ち上がりました。それは映画製作システム、配給システム、海外配給システムの三つの大きな柱からなります。それらの全てのシステムを作り直そうとしている大馬鹿者の集団なのです。さらに詳しく「有限会社うずまきにつぼん」の事を知りたい方は十月二三日(土)発売予定の書籍「行楽猿」(発売元：ビレッジセンター出版・定価：一七〇〇円/イワモトケンチ十小出裕一著・装丁：祖父江慎)をお買求めください。

キャスト

神足裕司
神田紅
栗原隆章
村越愛子
岡田リナ
青木千代知郎
寒空はたか
小林麻子
小林拓生
小井田理人/間節男
秋山田象/男・ヤン工藤/女・ホン植竹/妻・赤軍派の女/スタン
ド員「そうなんだ長南/いのしし」
天城太郎/犬「ハッピー」

スタッフ

製作 大井秀一
プロデューサー 久保光貴
監督・脚本 イワモトケンチ
撮影 福田衛陽
照明 小沢雅之
録音 杉山 篤
効果 中村佳央(東洋音響カモメ)
編集 金子尚樹
タイトルデザイン 祖父江慎
テーマ・ソング マサ子さん
『僕らのE・W(アースワーク)』
製作主任 小川王子/製作進行 長南大介/キャストイング 秋山想/助監督 工藤義洋/撮影助手 山川龍也/撮影応援 上田浩士/照明助手 齊藤勝範/十葉真/溝淵健二/照明応援 齊藤智十佐山勝行/十平野竜司/ヘアメイク 青木千代知郎/ヘアメイク助手 押弘和/スタイリスト イワモトケンチ/スチール 阿部美奈子/記録 小川王子/編集助手 松木朗/録音助手 加藤大和/音楽協力 赤池ユタカ/絵コンテ ばはかよ/絵コンテ助手 森平晶/空腹処理 平山美代子

協力

張華坤(城市電影公司・候孝賢電影社)/中条伸太郎/辻谷昭則(うずまきロンドン)/吉川昌宏/アティック・エイジェンシー/クロス・ホイント/コスフィッシュ/東洋照明/映像サービス/フィルム・クラフト/愛光株式会社/東映化学工業/にかつスタジオセンター
宣伝美術 祖父江慎十木庭貴信(コスフィッシュ)

